



# WEEKLY REPORT

## FUJIEDA ROTARY CLUB

### ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2620

第1531回

例会：毎週水曜日  
小杉苑

藤枝市青木2-2-48  
TEL 054-641-3321

事務局

藤枝市青木1-9-16  
TEL 054-647-2300

FAX 054-647-2040

Bhichai Rattakul  
RI President, 2002-03

2002-2003年度RIテーマ：慈愛の種を播きましょう  
松葉会長テーマ：会員相互の友情と連帯を深めよう

会長：松葉義之 副会長：渡辺篤司 幹事：村松英昭 副幹事：小宮弘一郎



何もしないままで、偉業が  
成し遂げられたことはない

<ソング> 我等の生業

<ソングリーダー> 池ノ谷 敏正君

### 会長報告

松葉 義之君

今月は「趣味職業別親睦活動月間」です。ロータリー親睦活動は共通の趣味を楽しみ、ロータリアンを結び付け、奉仕の機会を提供し、相互理解を促進し、またRCに新会員をひきつける機会になります。70年前に始まった親睦活動プログラムは趣味・職業別に加えて2001年に「健康・医療関係親睦活動」が始まり、多くのグループで活動が繰り広げられています。『友』6月号に特集が組まれ内容が詳しく紹介されています。また毎号の「内外よろず案内」にはいろいろなグループの催事の案内がされています。5月号の「案内」にはロータリーハムクラブ総会の案内が出ていますがこれも「ロータリー親睦活動」です。ROAR-JAPANと称しアマチュア無線(ハム)愛好家を作るクラブで日常の交信を楽しむほか、毎朝の電波例会が7,300回を超えたと紹介されています。

元会員の天野信直君は1978年創立時より所属活動されてきました。私も局免許保持者です。〔JA2AQW〕これが私のコールサインです。子供のころ“鉱石ラジオ”に出会い、中学の頃真空管式ラジオの組み立てに熱中したのが始まりです。高校の時短波放送受信がきっかけで、自分

の電波で仲間と話し合うアマチュア無線のことを知りました。ハローCQ~CQで相手呼び出しまったく初めての人とも親しく交信するのを傍受しながらその魅力に取り付かれました。世界共通の特別な用語のおかげで外国の局との交信やモールス信号による交信など聞くことが出来ました。連盟を通じて国内や外国に受信記録を送って集めた「QSLカード」は高校生の私の宝物でした。

免許取得後は一時忘我没頭の態、明け方まで機械にかじり付く生活でした。電波を通じた友人も多く出来、たのしい青春時代でした。その後結婚を境に、また多忙と相まって自然に遠ざかり、たまに友人の局から発信する程度になっています。

ITの発達や携帯電話の普及によりアマチュア無線の興味が薄れた感がありますが、共通の技術や関心を持つ不特定の方と交信し友人になれるハムの世界はまた特別です。藤枝市でも消防団の団員を中心にクラブを結成、活動しています。災害時等には頼もしい手段と期待しています。

戦後10余年、高度成長前で部品の調達に苦労しました。秋葉原のジャンク街で部品を漁って歩いたことを懐かしく思い出します。お酒やゴルフを少し抑えてハムの世界に復帰をと考えています。

## 幹事報告

村松 英昭君

2003～2004 年度地区会員増強セミナーのご案内が届いています。

IM 基調講演小冊子進呈挨拶文が届いています。

藤枝市民吹奏楽団の第 23 回定期演奏会のご案内が届いています。

## 出席報告

平田 宗太郎君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
32 / 46 69.57%	35 / 46 76.09%

(1) 欠席者（事前連絡とメーカーキャップをそうぞ）

浅川君 大塚君 仲田廣君 松葉義君  
池谷君 村松弘君 望月晃君 望月志君  
鈴木廣君 松葉隆君 板倉君 鈴木舜君

平君 仲田晃君

(2) メーカーキャップ者

小林治助君（藤枝南）

## スマイル BOX

小宮 弘一郎君

6 年生まれ、72 才会員誕生祝 平井 実君  
御蔭で 69 回目の誕生日を迎えることができました。

竹田 勲君  
会社設立 15 周年。静岡の別会社設立以来 15  
年目です。良く今迄運営出来ました。我ながら  
感心しております。

桜井富郎君  
卓話者石川太久治様よりニコニコを戴きました。

スマイル累計額 1,006,628 円

## 卓話

〔 元気のある企業 〕

株式会社 石川木材  
石川太久治 社長  
父の跡を継いで製材  
という仕事に入り、そ  
の後、製材から建築へ  
シフトさせました。



しかし、製品（木材）が売れなくなってきました。その頃の私は、自信を持って奨められる自分の“ブランド”がなく悩んでいましたし、当然受注も落ち込みました。そんな時出会ったのが、葉枯らしをさせた天竜材でした。葉枯らしとは、伐採後、枝葉を付けたまま乾燥させることです。葉枯らしさせると水分が抜ける分、軽く運搬が容易になり、木の狂い（反り、ゆがみ）が落ち着きます。その他、木材腐食の原因菌が付きにくくなるメリットがあります。

「山が荒れている」とよく云われます。外材に押され、相場が低迷。伐採・出荷を急ぐ今の状況が荒廃に拍車をかけています。我々、製材業者の死活問題です。

昨年、県内 5 社が集まって「TS（天竜材）ドライ」というグループを結成しました。今の状況を何とかしなくては、との思いで、流通から変えた新システムを開始しました。基本方針は、天竜川流域以外の木は使わない。樹齢 70 年以上の木材だけ使用。葉枯らしを 3 ヶ月以上。尚且つ製材してからも充分熟成（乾燥）など出荷が遅れ資金的にも大変です。しかし、消費者に自信を持って奨めることのできる商品を提供するには妥協できない点です。

又、流通経路も見直しました。山元の意欲を取り戻すため、まず山元への利益となる分を先に計算、流通経路を省く事により、一般の流通と変わらない価格で消費者に提供できるようにしました。

今後の事業展開は、私達の木材に対する思いをもっと知ってもらいたい。

事実、顧客の中には、県外の施主さんも多いので、もっともっと地元の方に、県内産の天竜杉の良さを知ってもらうように努力していきたいと思っています。

（担当 / 平井）